

平成 30 年度 三重大学生 環境アンケート調査報告書（概要版）

この 10 年間で三重大学の構成員の環境に対する意識が定着し始めてきました。駒田学長は今まで大学教職員や学生に受け入れられてきた環境に配慮した活動をさらに浸透させ、「環境の文化が根付く大学」を作り上げるという方向性を示され実施しています。

この度、三重大学生が自らの環境に対する取り組みを振り返るアンケート調査を実施し、環境意識やキャンパスライフについてのご意見をお伺いしました。この調査で得た結果は、本学の環境活動の目標の設定と、学生の環境により意識をしたキャンパスライフの転換に向けたきっかけとなることを目指した取り組みに活かしてまいります。

【調査概要】

1. 調査目的 本学学生の環境に対する「**認識・意識・行動**」について現状を把握し、三重大学が進める「環境先進大学」としての役割と位置づけ、到達点（教育効果など）の設定を明確にすることを目的とする。
2. 調査対象 三重大学生
3. 調査方法 Web（moodle3）活用 of アンケート
4. 調査期間 平成 30 年 10 月 1 日（月）～平成 30 年 10 月 31 日（水）
5. 回収状況 回収者数 **883 人**

【環境アンケート結果の要約】

環境に対する認識について

- 環境問題に関しては、地球温暖化に対して 87%が問題であると認識し、ごみ処理は深刻な問題であるという認識は、93%と高い認識であった。
- 三重大大学の取り組みに関して、環境活動に力を入れている認識は 79%と高いが、省エネ活動に積極的に取り組んでいるという認識は 31%、3R 活動に積極的に取り組んでいる認識は 19%の認識に留まった。
- 学生自身のライフスタイルに関しては、自身のライフスタイルは環境に配慮したものであるという回答は 45%、周りの友達のライフスタイルは環境に配慮したものであるという回答は 27%、三重大大学の学生は環境に対して意識が高いと思う認識は 40%の結果となった。

環境に対する意識と行動について

- 冷暖房が効きすぎていると、「もったいない」と思う回答は 57%に対して、冷暖房は効きすぎないようにしているという行動は 78%と、冷暖房の省エネ行動は省エネ意識を上回る結果になった。
- 点けっぱなしのテレビやパソコンを見たら、「電気がもったいないな」と思う回答は 78%に対して、テレビやパソコンの電気はこまめに消しているという回答は 75%となり、意識と行動がほぼ同数の結果になった。
- 誰もいない教室で電気が点けっぱなしになっていたら、「電気がもったいないな」と思うと回答は、85%と高い結果になったことに対して、誰もいない教室で電気が点けっぱなしになっていたら消しているという回答は 64%となり、無駄な照明について意識が高いが、行動が少し低いという結果に差が出た。
- 省エネ意識としては、視覚から得られる「無駄な電気機器の使用」は比較的もったいないという意識が働きやすいが、空

3 / 36

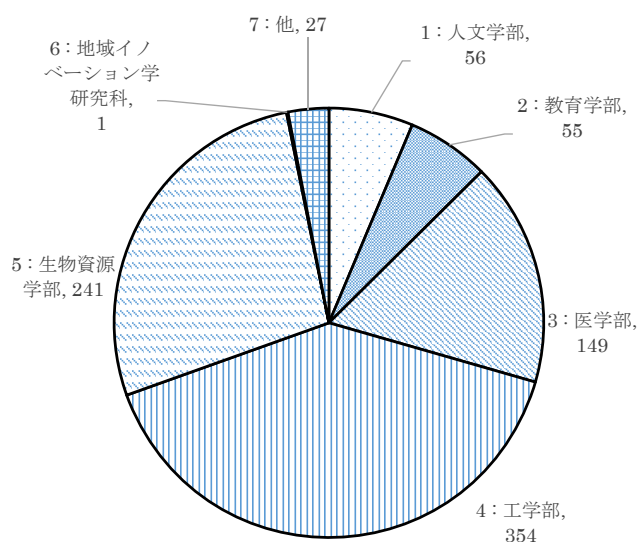
調温度の体感（肌感覚）でしか得られない無駄は、「もったいない」という意識が生まれにくいという結果になった。

- ボランティア活動に関して、地域の清掃活動などボランティア活動に参加したいと思うという回答は半数近い 49%の結果となったが、地域の清掃活動などボランティア活動に参加しているという回答は 17%となり、ボランティアに対する参加意識があっても、実際行動に移すという回答には約 3 倍の差が出た結果になった。

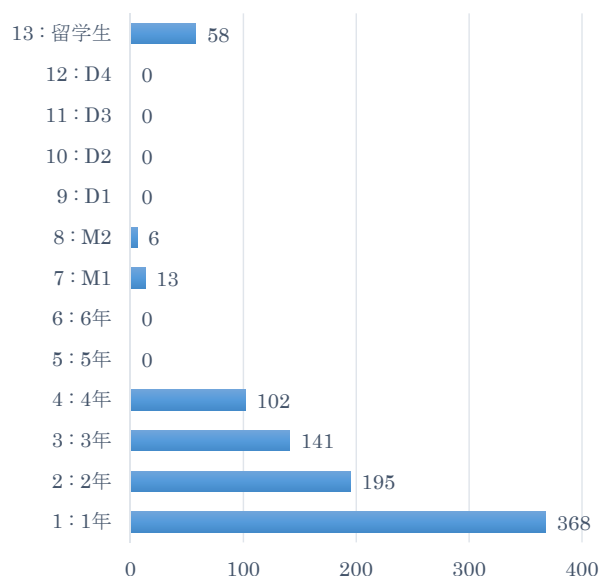
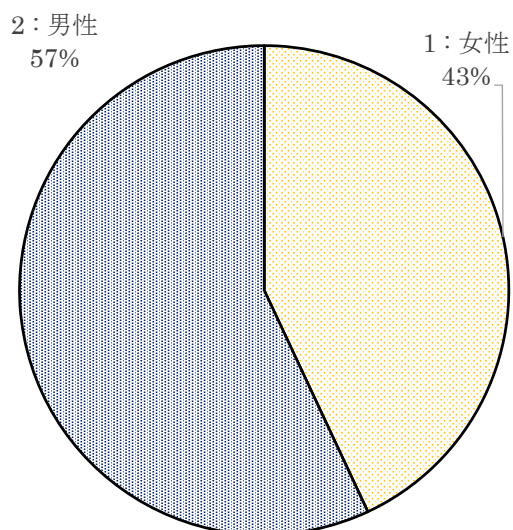
その他

- 環境に関する対話の設問を行った結果、友人と節電やごみ問題について話をすることがあるという回答は 16%、家族と話をすることがあるという回答は 30%の結果なり、友人と話をするよりも家族と話をする機会が多い結果がでた。

	回答	回答率
人文学部＋研究科	56 人	4.5%
教育学部＋研究科	55 人	5.7%
医学部＋研究科	149 人	11.0%
工学部＋研究科	354 人	15.4%
生物資源学部＋研究科	241 人	18.5%
地域イノベーション学研究科	1 人	2.1%
留学生	27 人	-
	回答計	平均
	883 人	12.3%



回答者 学部構成



回答者構成（左：性別、 右：学年）

3 調査内容

今回の調査では、学生認識と意識及び行動について調査を行い、今後の三重大大学の取り組みについて検討する一環として、以下の内容について大学生を対象にアンケート実施。

① 基本情報(3 問)1-3

問1 所属学部

問2 学年

問3 性別

② 環境に対する認識(環境問題、三重大大学の取り組み)について(15 問)4-18

問4 現在、地球温暖化は深刻な問題である。

問5 私たちのライフスタイル（生活）が地球温暖化問題の原因である。

問6 三重大大学は省エネ活動に積極的に取り組んでいることを知っていますか。

問7 ごみの処理は深刻な問題である。

問8 私たちのライフスタイルがごみ問題の原因である。

問9 三重大大学は3R活動に積極的に取り組んでいることを知っていますが。

問10 あなた自身のライフスタイルは環境に配慮したものである。

問11 周りの友達のライフスタイルは環境に配慮したものである。

問12 三重大大学は環境活動に力を入れていると思う。

問13 三重大大学のキャンパスは植生が豊かで自然と共生できていると思う。

問14 キャンパス内では「ホッ!!」と気持ちが休まるイベントや機会がある。

問15 キャンパス内の「憩いのスペース」は充分であると思う。

問16 「憩いのスペース」がキャンパス内のどの辺りにあればよいと思いますか。（複数選択可）

問17 三重大大学の学生は環境に対して意識が高いと思う。

問18 学生が組織する「環境ISO学生委員会」を知っていますか。

7 / 36

③ 環境に対する意識について(13 問)19-31

問19 冷暖房が効きすぎていると、「もったいない」と思いますか。

問20 点けっぱなしのテレビやパソコンを見たら、「電気がもったいないな」と思いますか。

問21 誰もいない教室で電気が点けっぱなしになっていたら「電気がもったいないな」と思いますか。

問22 買い物時にレジ袋をもらうと、「もったいないな」と思いますか。

問23 地域の清掃活動などボランティア活動に参加したいと思いますか。

問24 ボランティア活動に楽しんで参加する友達は素敵だと思いますが。社会貢献

問25 三重大大学などで開催される環境イベントに参加したいと思いますか。

問26 大学卒業後、三重県に住むまたは通いたいと思いますか。

問27 就職活動の際、企業等の環境の方針を考慮しようと思いますか。

問28 「エコ」=「がまん」というイメージがありますか。

問29 「エコ」=「カッコイイ」というイメージがありますか。

問30 「エコ」=「おしゃれ」というイメージがありますか。

問31 環境配慮商品が他の商品より高い場合、買おうと思いますか。

④ 環境に関する行動について(11 問)32-42

問32 冷暖房は効きすぎないようにしている。

問33 テレビやパソコンの電気はこまめに消している。

問34 誰もいない教室で電気が点けっぱなしになっていたら、消している。

問35 買い物時にマイバッグを持参し、レジ袋を断る。

問36 地域の清掃活動などボランティア活動に参加している。

問37 楽しんでエコな取り組みをしている。

問38 三重大大学で開催される環境イベントに参加している。

問39 友人と、節電やごみ問題について話をすることがある。

問40 家族と、節電やごみ問題について話をすることがある。

問41 テレビや新聞などで、節電やごみ問題についての情報を目にするがある。

問42 気軽に環境問題について話せる友人は何人いますか？

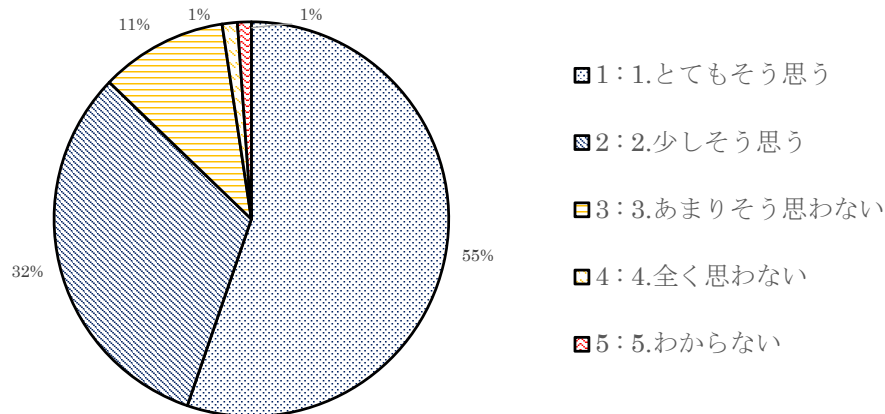
8 / 36

認識について

環境に対する認識に関して、環境問題に関して設問数 4 問、三重大大学の環境についての取り組みに関して設問数 8 問、学生自身のライフスタイルに関して設問数 3 問、合計 15 問の設問を行った。

○ 環境問題に関しては、地球温暖化とごみ処理に関する認識の設問を行った結果は次の通り。

問 4 現在、地球温暖化は深刻な問題である。



「地球温暖化は深刻な問題である」という認識は、87%が問題であると認識している。

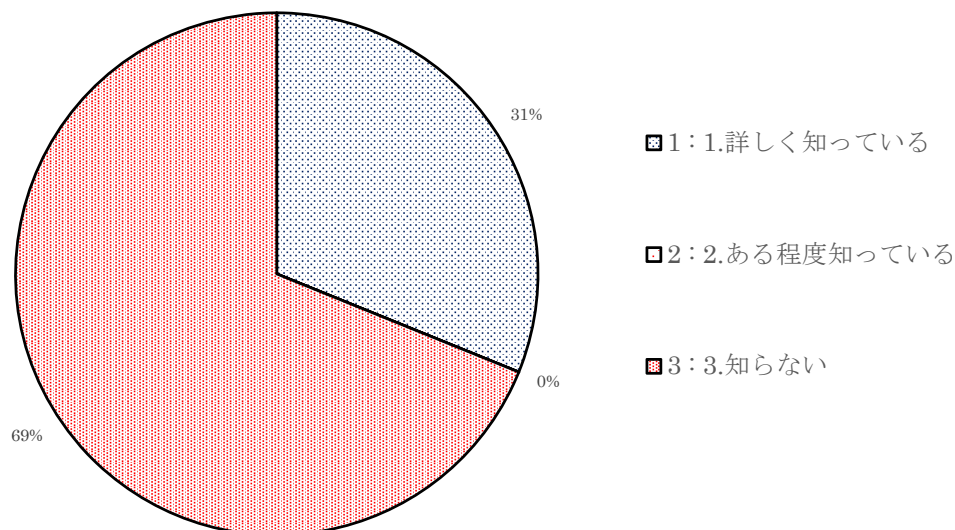
認識が一番低い学部は、80%の工学部生となり、その他の学部は 90%以上の深刻な問題だという認識である。

学年別で比較すると、3 年生と院生の認識が低い傾向が出たが、これは工学部の学生が多いためであり、4 年生が低い結果にならなかったのは、医学部生の 4 年生の回答が多かった結果（4 年生の回答の約 7 割）が影響している。

（比較⑥a 先行事例調査（京都市内の大学生）と比較：地球温暖化の認識）環境に対する意識について、「現在、地球温暖化は深刻な問題である」という意識について、平成 25 年度に京都市がアンケート調査をした結果と比較するとほぼ同じ傾向（87%～90%）になった。

9 / 36

問 7 ごみの処理は深刻な問題である。



「ごみの処理は深刻な問題である」という認識は、93%と高い認識である。

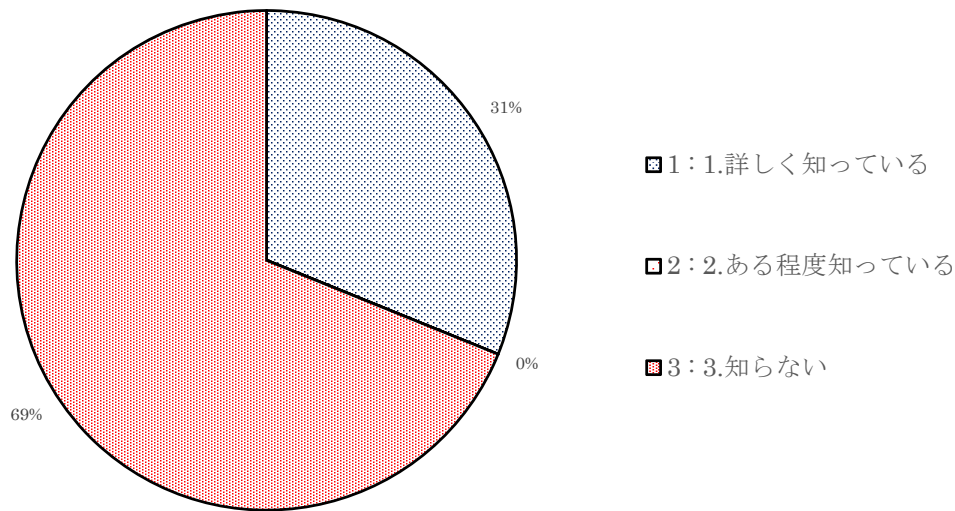
学部の違いおよび学年の比較をしてもすべて 90%以上という結果が出た。

ごみの処理に対する課題の認識が高い結果になった

10 / 36

○ 三重大学の環境についての取り組みに関して、省エネと 3R、キャンパス環境、環境 ISO 学生委員会に関する認識の設問を行った結果は次の通り。

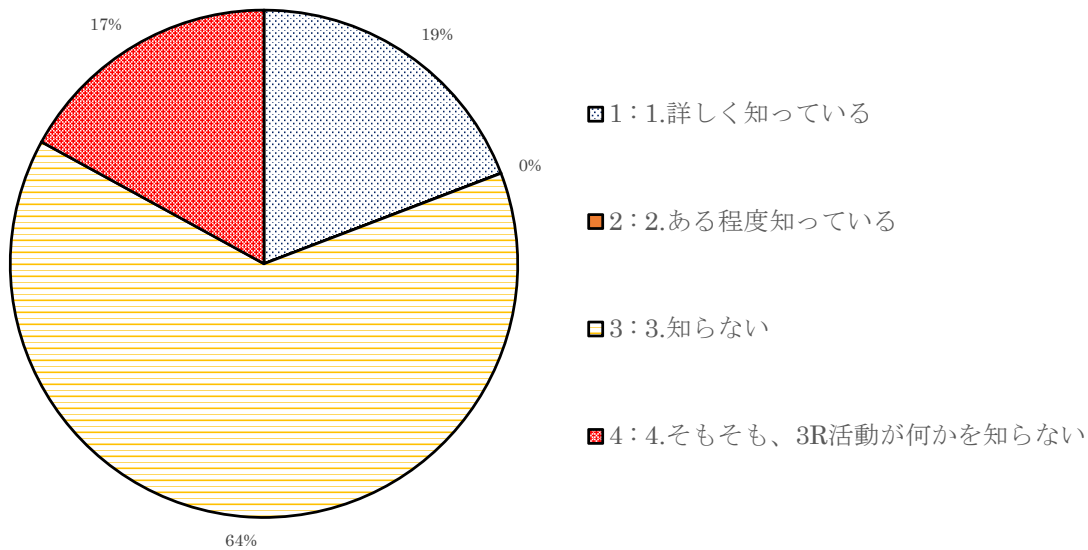
問 6 三重大学は省エネ活動に積極的に取り組んでいることを知っていますか。



「三重大学は省エネ活動に積極的に取り組んでいることを知っている」という認識は、31%にとどまっている。

学部としては、人文学部生と教育学部生は半数に当たる 50%が省エネに積極的と認識しているが、工学部生、生物資源学部生は約 30%、医学部生と留学生は 20%と本学の省エネルギーの活動の周知の不足という結果が出た。

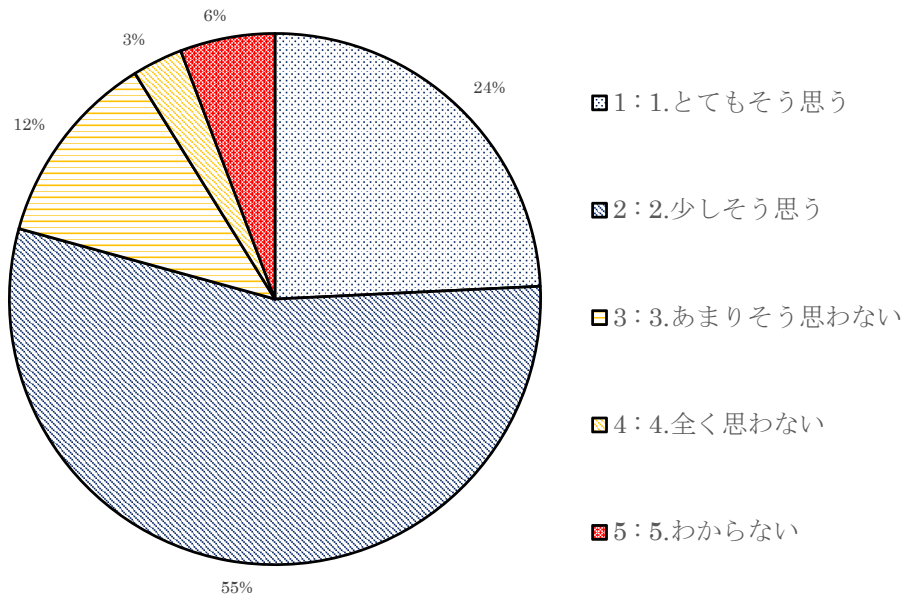
問 9 三重大学は 3R 活動に積極的に取り組んでいることを知っていますが。



「三重大学は 3R 活動に積極的に取り組んでいることを知っています」という認識は、19%にとどまっている。

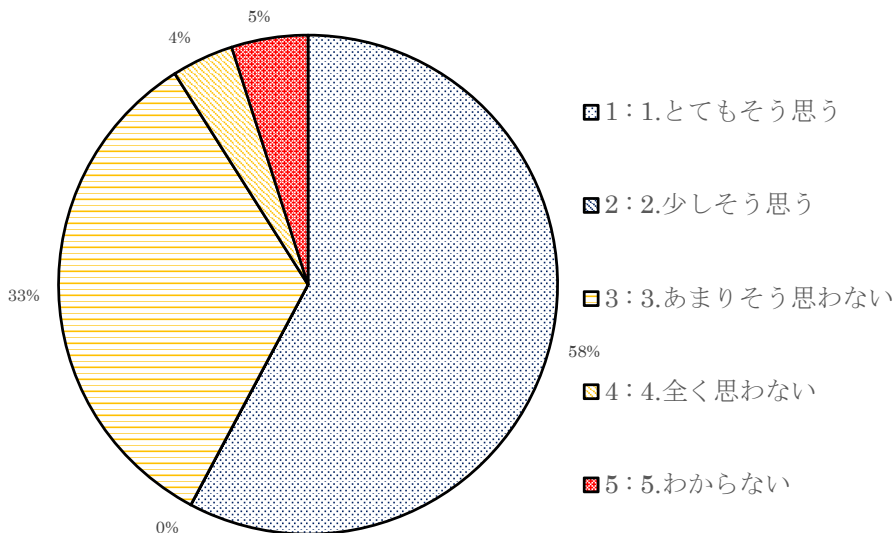
また、「3R 活動が何か知らない」という回答は、全学では 17%が知らないという結果、留学生は 43%が「3R 活動を知らない」という顕著な結果になった。

問 12 三重大大学は環境活動に力を入れていると思う。



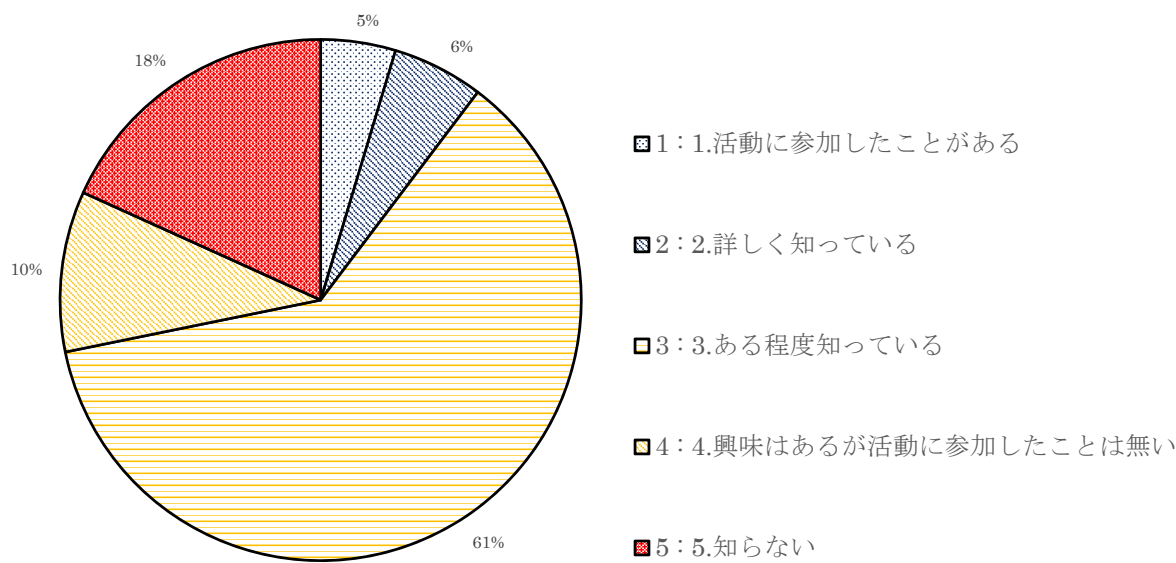
「三重大大学は環境活動に力を入れていると思う」という認識は、79%の結果となり大学の活動に理解が得られていると判断ができる。
学部で比較すると、人文学部生が 91%、教育学部生が 91%で「とてもそう思う」という回答も多い傾向にあった。

問 13 三重大大学のキャンパスは植生が豊かで自然と共生できていると思う。



「三重大大学のキャンパスは植生が豊かで自然と共生できていると思う」という認識は、58%の結果となった。
学部で比較すると、人文学部生が 90%、教育学部生が 80%と、植生が豊かで自然と共生できているという認識が高い傾向にあった。
工学部生 48%と生物資源学生 47%は、回答半数以下が「共生できている」という結果であった。
特に生物資源学部生は、「全く思わない」と回答した学生が 9%も占めた。

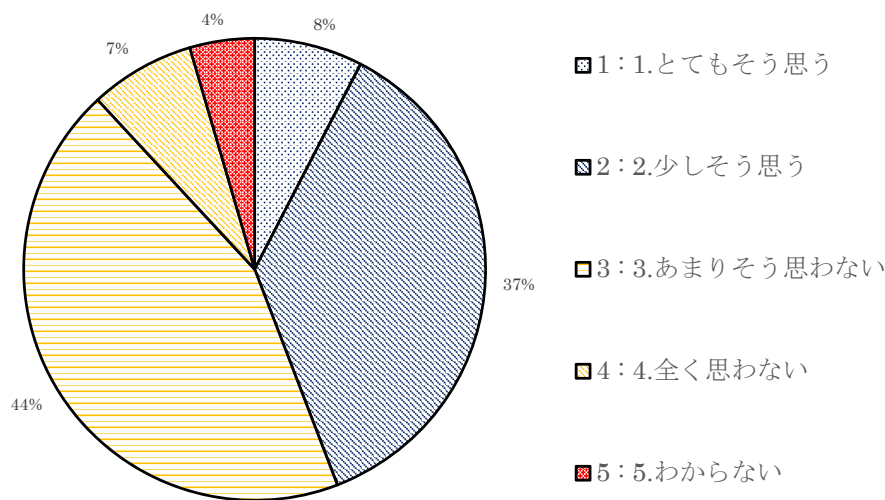
問 18 学生が組織する「環境 ISO 学生委員会」を知っていますか。



「学生が組織する「環境 ISO 学生委員会」を知っている」という認識は、82%が何らかの形で認識をしているとの結果となった。
学部で比較すると、人文学部生の 30%、環境 ISO 学生委員会への認知が低い傾向にあった。

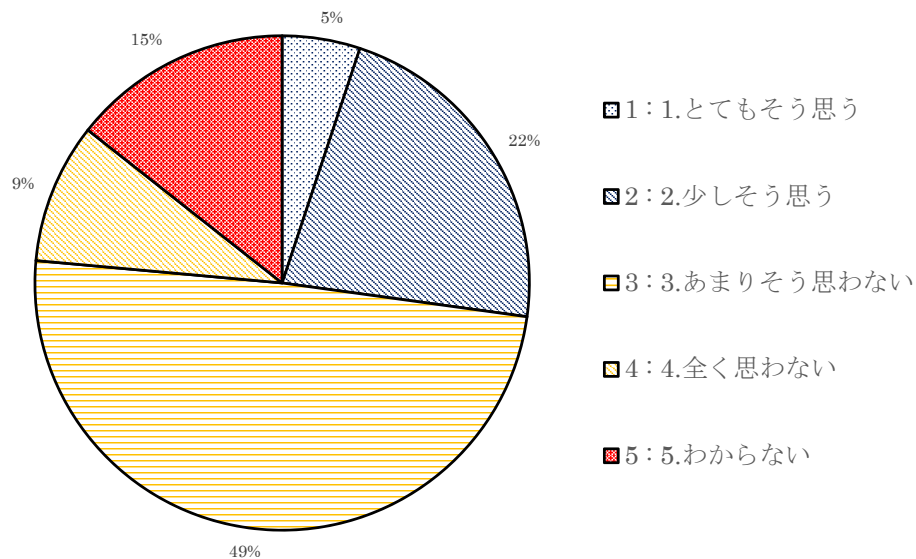
○ 学生自身のライフスタイルに関しては、自分の活動と友達の活動、学生全体の環境意識に関する認識の設問を行った結果は次の通り。

問 10 あなた自身のライフスタイルは環境に配慮したものである。



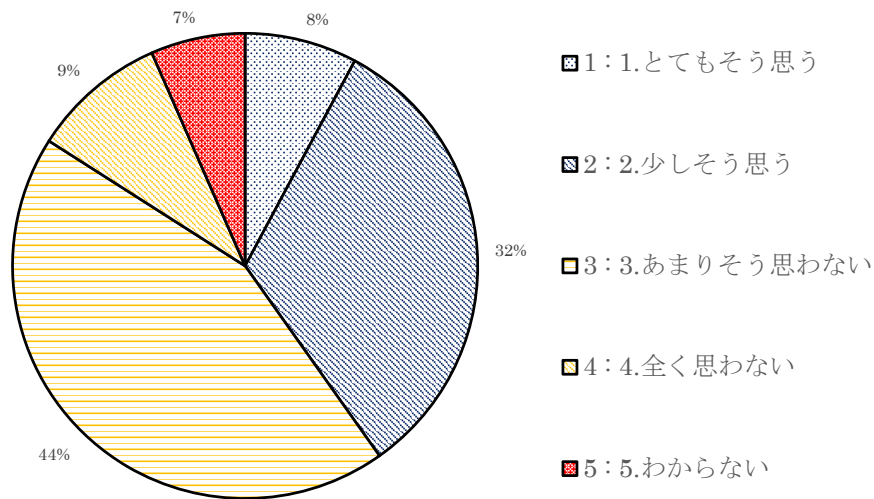
「あなた自身のライフスタイルは環境に配慮したものである」という回答は、45%が環境に配慮したライフスタイルであると回答している。
学部の違いでは、人文学部生が 66%と留学生が 79%と他学部と比べ、環境に配慮したライフスタイルを実施しているという結果になった。

問 11 周りの友達のライフスタイルは環境に配慮したものである。



「周りの友達のライフスタイルは環境に配慮したものである」という回答は、27%が環境に配慮したライフスタイルであると回答している。
全学の平均より低い結果となった学部は、工学部生が23%と生物資源学部生が26%であった。
留学生は64%と他学部と比べ、友人のライフスタイルが環境に配慮したものであるという結果になった。

問 17 三重大大学の学生は環境に対して意識が高いと思う。



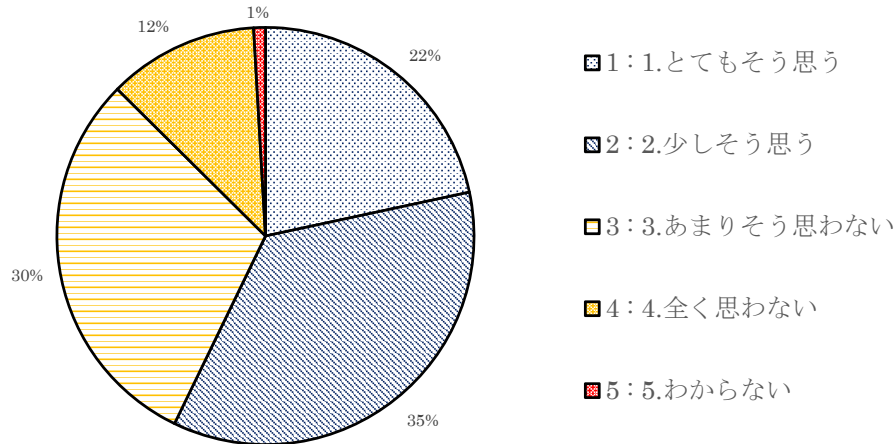
「三重大大学の学生は環境に対して意識が高いと思う」という認識は、40%の結果となった。
学部で比較すると、半数を超えたのが、人文学部生の55%、教育学部生の55%、留学生の78%と、文系学生が環境に意識が高いと認識する傾向にあった。

意識について

環境に対する意識に関して、省エネと 3R 活動に関して設問数 5 問、ボランティア活動に関して設問数 2 問、エコに対するイメージに関して設問数 3 問、その他（学生の行動と評価・判断）に関する設問数 3 問、合計 13 問の設問を行った。

○ 省エネ・3R 活動に関する意識の設問を行った結果は次の通り。

問 19 冷暖房が効きすぎていると、「もったいない」と思いますか。



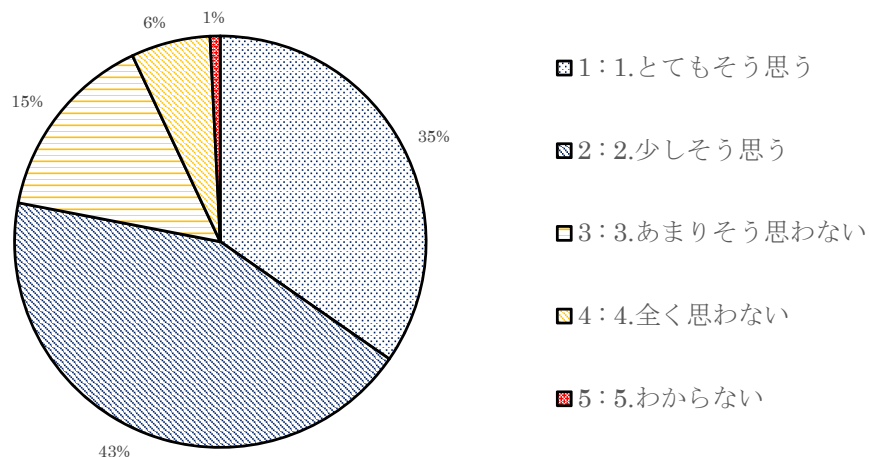
「冷暖房が効きすぎていると、「もったいない」と思う」という回答は、57%の結果となった。

学部で比較すると、工学部生の 48%のみが「もったいないと思う」とした回答が半数以下となったが、他の学部では「冷暖房が効きすぎていると、「もったいない」と認識する学生が半数以上の結果になった。

（比較⑥f 先行事例調査（京都市内の大学生）と比較：冷房についての行動）環境に対する行動について、「冷暖房は効きすぎないようにしている」という行動について、平成 25 年度に京都市がアンケート調査をした結果と比較するとほぼ同じ傾向（78%～84%）になった。

19 / 36

問 20 点けっぱなしのテレビやパソコンを見たら、
「電気がもったいないな」と思いますか。



「点けっぱなしのテレビやパソコンを見たら、「電気がもったいないな」と思う」という回答は、78%の結果となった。

学部で比較しても回答に大きな違いは見られなかった。

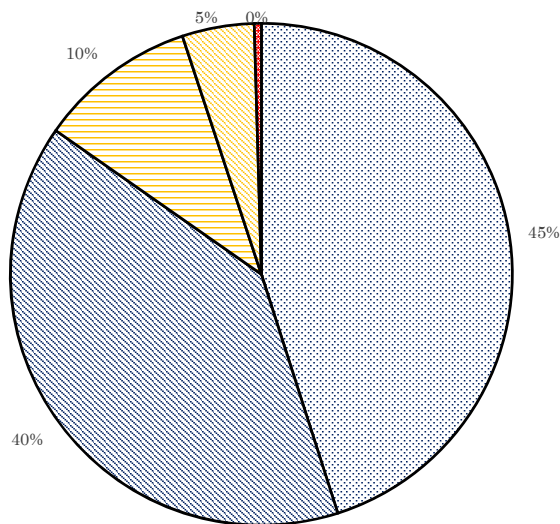
ただし、前問（問 19）の「冷暖房が効きすぎていると、「もったいない」と思う」という回答が、57%の結果と比較すると、視覚から得られる「無駄な電気機器の使用」は比較的にもったいないという意識が働きやすいが、空調温度の体感（肌感覚）でしか得られない無駄は、「もったいない」という意識が生まれにくいという結果になった。

（比較⑥c 先行事例調査（京都市内の大学生）と比較：点けっぱなしの PC の認識）環境に対する意識について、「点けっぱなしのテレビやパソコンを見たら「電気がもったいないな」と思いますか」という意識について、平成 25 年度に京都市がアンケート調査をした結果と比較するとほぼ同じ傾向（78%～85%）になった。

20 / 36

問 21 誰もいない教室で電気が点けばなしになっていたら

「電気もったいないな」と思いますか。

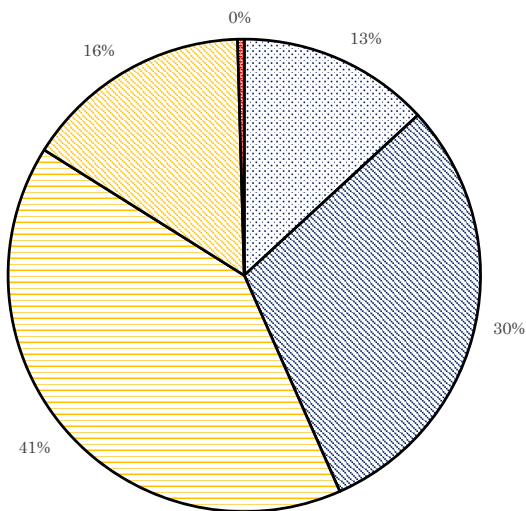


- 1: 1.とてもそう思う
- 2: 2.少しそう思う
- 3: 3.あまりそう思わない
- 4: 4.全く思わない
- 5: 5.わからない

「誰もいない教室で電気が点けばなしになっていたら、「電気もったいないな」と思う」という回答は、85%の結果となった。
学部で比較しても、すべての学部で 80%以上が「電気もったいないと思う」の回答が得られ、学部による違いは見られなかった。

(比較⑥d 先行事例調査(京都市内の大学生)と比較:教室の消灯の意識) 環境に対する意識について、「誰もいない教室で電気が点けばなしになっていたら「電気もったいないな」と思う」という意識について、平成 25 年度に京都市がアンケート調査をした結果と比較するとほぼ同じ傾向 (85%~90%) になった。

問 22 買い物時にレジ袋をもらおうと、「もったいないな」と思いますか。



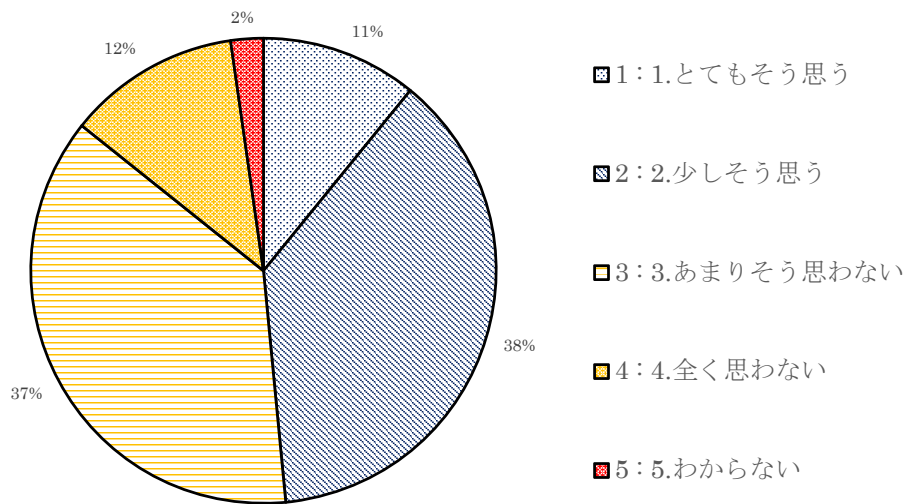
- 1: 1.とてもそう思う
- 2: 2.少しそう思う
- 3: 3.あまりそう思わない
- 4: 4.全く思わない
- 5: 5.わからない

「買い物時にレジ袋をもらおうと、「もったいないな」と思いますか」という回答は、43%の結果となった。

学部で比較すると、人文学部生の 57%、留学生の 79%が「レジ袋をもらおうともったいないと思う」と半数以上と認識する学生が半数以上の結果になった。

○ ボランティア活動に関する意識の設問を行った結果は次の通り。

問 23 地域の清掃活動などボランティア活動に参加したいと思いますか。

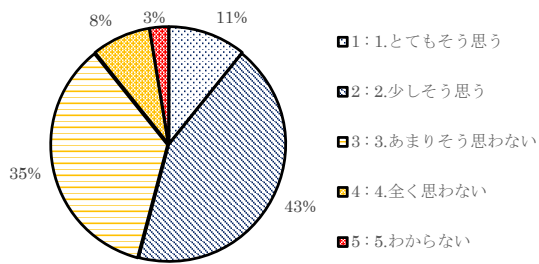


「地域の清掃活動などボランティア活動に参加したいと思う」という回答は、半数近い 49%の結果となった。

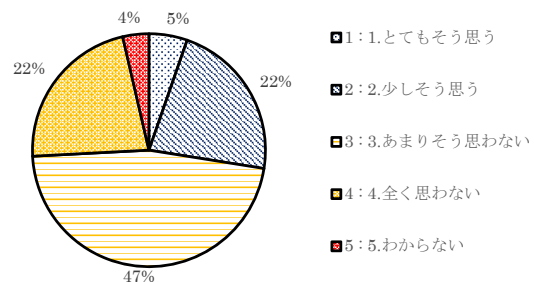
学部で比較すると、人文学部生の 70%、教育学部生の 64%、生物資源学部生の 57%、留学生の 68%が「地域のボランティア活動に参加したいと思う」という認識する学生が半数以上の結果になった。

○ エコのイメージに関する設問を行った結果は次の通り。

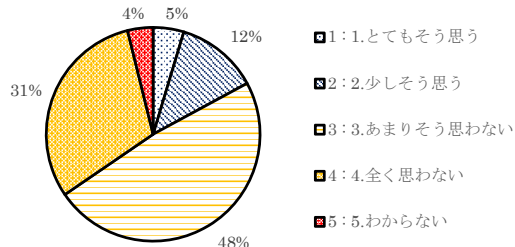
問 28 「エコ」＝「がまん」というイメージがありますか。



問 29 「エコ」＝「カッコイイ」というイメージがあるか。



問 30 「エコ」＝「おしゃれ」というイメージがありますか。

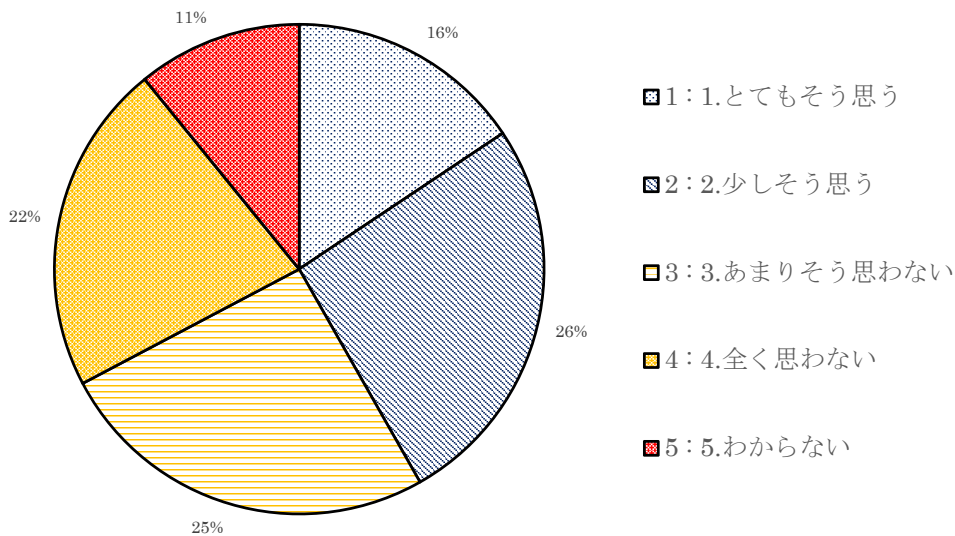


「エコ」＝「がまん」というイメージがある、54%。
「エコ」＝「カッコイイ」というイメージがある、27%。
「エコ」＝「おしゃれ」というイメージがある、17%。

「エコ」＝「がまん」：54%＞「エコ」＝「カッコイイ」：27%＞「エコ」＝「おしゃれ」：17%
の回答結果から、エコは「がまん」というイメージが半分ほどあり、続いて「少しカッコイイ」、そして「少しおしゃれ」というイメージであった。
学部で比較すると、教育学部生が 66%と、「エコ」＝「がまん」というイメージがある」と高い結果となった。
留学生については 54%が、「エコ」＝「がまん」というイメージがない」、65%が、「エコ」＝「カッコイイ」というイメージがある」、50%が、「エコ」＝「おしゃれ」というイメージがある」という他学部と比較すると違った結果になった。

○ その他（学生の行動と評価・判断）に関する意識の設問を行った結果は次の通り。

問 26 大学卒業後、三重県に住むまたは通いたいと思いますか。



「大学卒業後、三重県に住むまたは通いたいと思う」という回答は、42%の結果となった。

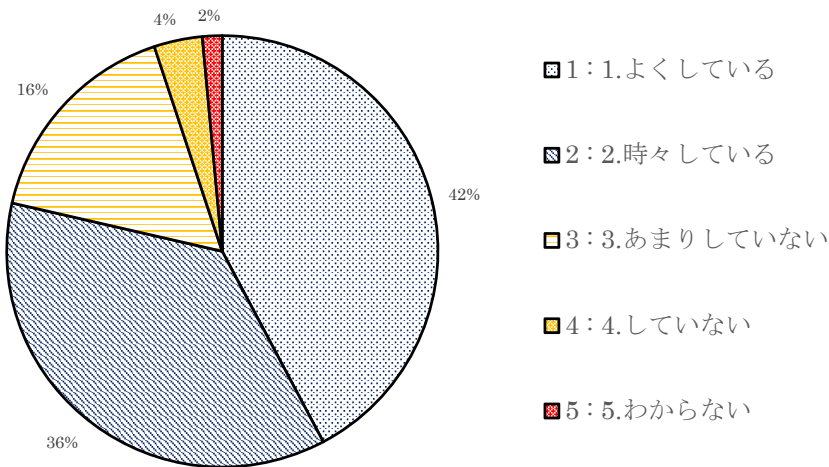
学部で比較すると、教育学部生の 80%、医学部生の 65%が「大学卒業後、三重県に住む」という結果となった。
また、留学生を回答においても 43%が「大学卒業後、三重県に住む」という結果になった。

行動について

環境に対する行動に関して、省エネと 3R 活動に関して設問数 4 問、ボランティア活動に関して設問数 2 問、環境に関する対話の設問数 3 問、その他（学生の行動、環境情報の収集）に関する設問数 2 問、合計 11 問の設問を行った。

○ 省エネ・3R 活動に関する行動の設問を行った結果は次の通り。

問 32 冷暖房は効きすぎないようにしている。



「冷暖房は効きすぎないようにしている」という回答は、78%の結果となった。

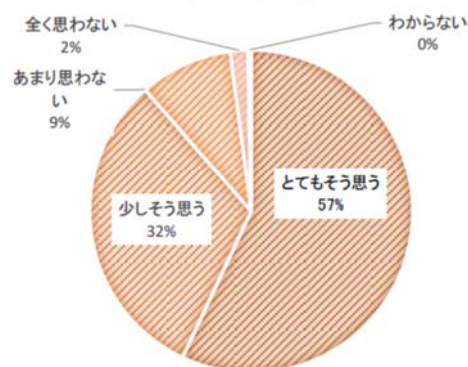
すべての学部で 76%以上が「冷暖房は効きすぎないようにしている」の回答が得られ、学部による大きな違いは見られなかった。

（比較①冷暖房）環境に対する意識と行動について、「冷暖房が効きすぎていると、「もったいない」と思う」意識が 57% に対して、行動は意識を上回る 78%の学生が「冷暖房は効きすぎないようにしている」という結果になった。

(比較⑥b 先行事例調査（京都市内の大学生）と比較：冷房の効きすぎの意識）

問7.冷暖房が効きすぎていると、「もったいない」。

平成 25 年 京都市内の大学生の結果 n=1,530



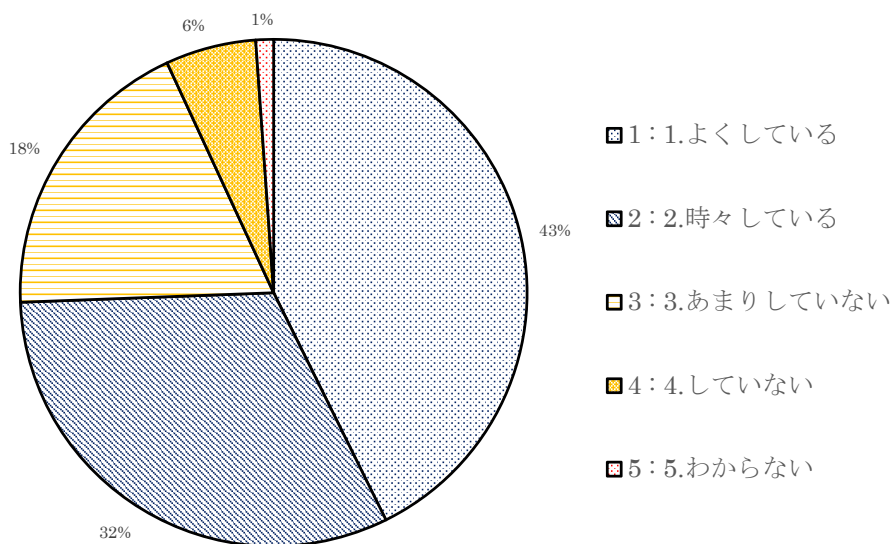
環境に対する意識について、「冷暖房が効きすぎていると、「もったいない」と思いますか」という意識について、平成 25 年度に京都市がアンケート調査をした結果は、89%がもったいないと回答した結果に比べ、本学学生は 57%と冷房の使用に関する意識では低い傾向になった。この傾向について検証すると、京都市でアンケートを実施されたのは、平成 25 年であり、京都市内の学生が省エネ行動として「冷房の効きすぎの意識」が三重大学生よりも高いのは、平成 23 年（2011 年）3 月 11 日の東日本大震災以降、日本国内の原子力発電所の停止の影響が大きく、実際、平成 23 年 - 平成 24 年冬季には、原発停止により関西電力

管内で節電を実施した直後であることから、京都市内の学生は平成 25 年度のアンケート結果として、空調の省エネの意識が高かったと推測される。

ちなみに、関西電力の原子力発電の発電比率は、東日本大震災前の平成 22 年 3 月期で比べると発電量に占める原子力の割合は、約 53%と全国の発電会社として最も割合が高く（中部電力は約 12%）、そのため、官民共同で、節電に取り組んでいた背景がある。

27 / 36

問 33 テレビやパソコンの電気はこまめに消している。



「テレビやパソコンの電気はこまめに消している」という回答は、75%の結果となった。

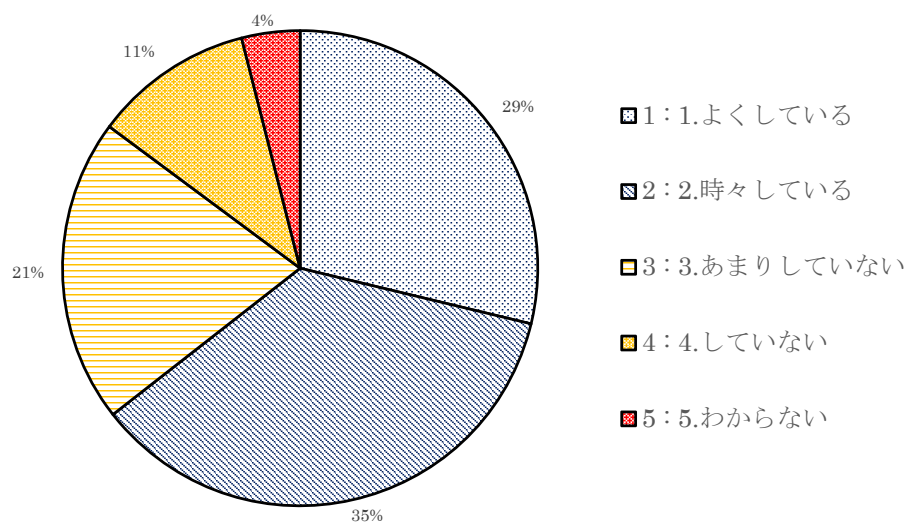
すべての学部で約 70%以上が「テレビやパソコンの電気はこまめに消している」の回答が得られ、学部による大きな違いは見られなかった。

(比較②PC 電源) 環境に対する意識と行動について、「点けっぱなしのテレビやパソコンを見たら、「電気がもったいないな」と思う」意識が 78%に対して、行動は 75%の学生が「テレビやパソコンの電気はこまめに消している」と、意識と行動がほぼ同数の結果になった。

(比較⑥g 先行事例調査（京都市内の大学生）と比較：PC の消灯) 環境に対する行動について、「テレビやパソコンの電気はこまめに消している」という行動について、平成 25 年度に京都市がアンケート調査をした結果と比較するとほぼ同じ傾向（75%～71%）になった。

28 / 36

問 34 誰もいない教室で電気が点けばなしになっていたら、消している。



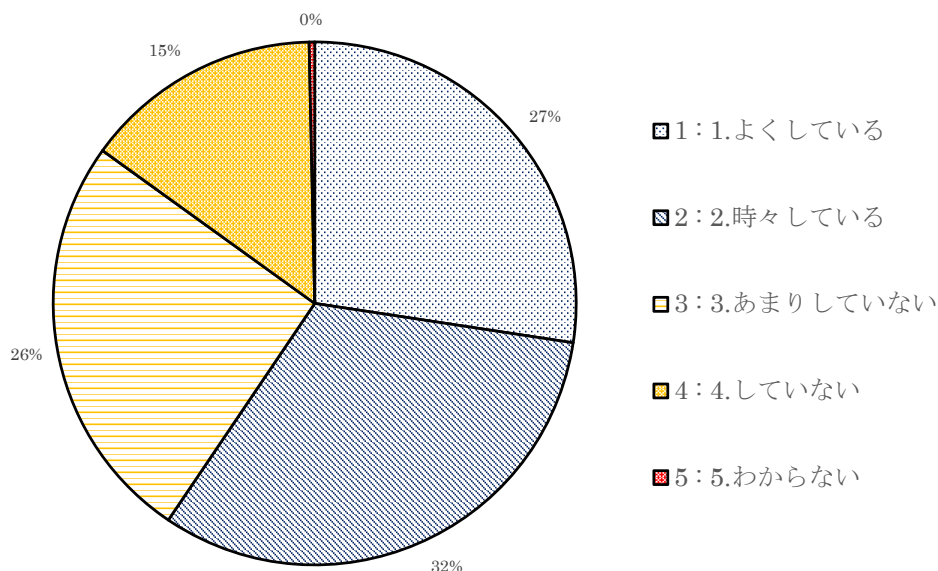
「誰もいない教室で電気が点けばなしになっていたら、消している」という回答は、64%の結果となった。

学部で比較すると、人文学部生が 77%、教育学部生が 78%と、医学部生 74%と「誰もいない教室の電気は消している」と高い結果になった。

(比較③教室照明) 環境に対する意識と行動について、「誰もいない教室で電気が点けばなしになっていたら「電気もったいないな」と思う」意識が 85%に対して、行動は 64%の学生が「テレビやパソコンの電気はこまめに消している」と、意識が高いが行動が少し低いという差が出た結果になった。

(比較⑥h 先行事例調査(京都市内の大学生)と比較: 教室の消灯) 環境に対する行動について、「誰もいない教室で電気が点けばなしになっていたら消している」という行動について、平成 25 年度に京都市がアンケート調査をした結果と比較するとほぼ同じ傾向 (64%～66%) になった。

問 35 買い物時にマイバッグを持参し、レジ袋を断る。



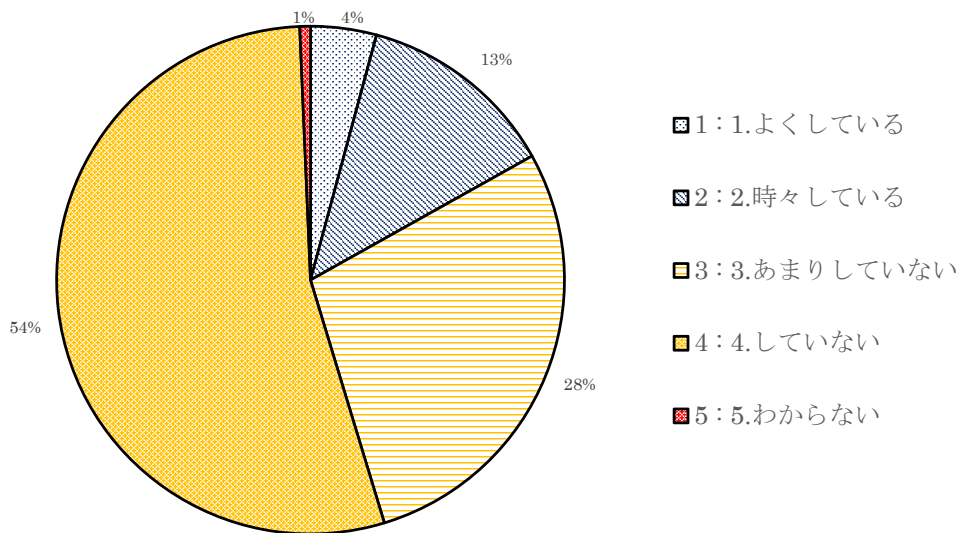
「買い物時にマイバッグを持参し、レジ袋を断る」という回答は、64%の結果となった。

学部で比較すると、工学部生が 49%と「マイバッグを持参し、レジ袋を断る」の回答が低い結果となったが、他学部生 60%以上の高い回答の結果になった。

(比較④マイバッグ使用) 環境に対する意識と行動について、「買い物時にレジ袋をもらうと、「もったいないな」と思いますか」意識が 43%に対して、行動は意識を上回る 59%の学生が「買い物時にマイバッグを持参し、レジ袋を断る」という結果になった。

○ ボランティア活動に関する意識の設問を行った結果は次の通り。

問 36 地域の清掃活動などボランティア活動に参加している。

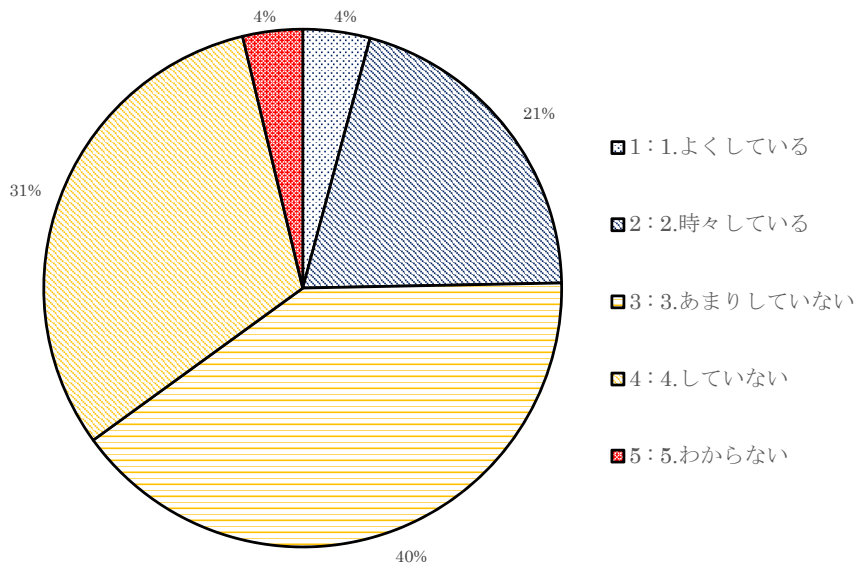


「地域の清掃活動などボランティア活動に参加している」という回答は、17%の結果となった。

学部で比較すると、人文学部生が 29%、教育学部生が 27%、留学生 25%と「地域のボランティア活動に参加している」の回答は全学の平均より高い結果になった。

（比較⑤ボランティア活動）環境に対する意識と行動について、「地域の清掃活動などボランティア活動に参加したいと思う」意識が 49%に対して、行動は 17%の学生が「地域の清掃活動などボランティア活動に参加している」と、意識と行動に約 3 倍の差が出た結果になった。

問 37 楽しんでエコな取組みをしている。

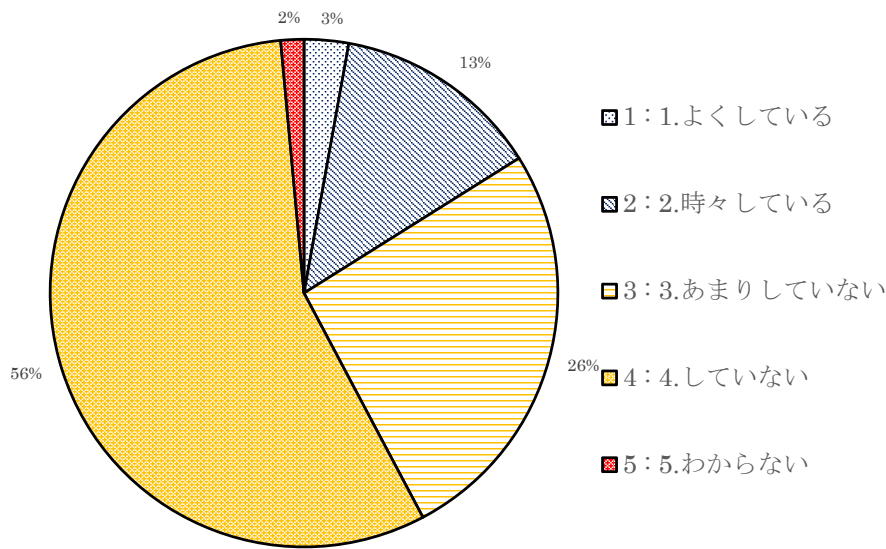


「楽しんでエコな取組みをしている」という回答は、25%の結果となった。

学部で比較すると、人文学部生が 46%、留学生 61%と「楽しんでエコな取組みをしている」の回答は高い結果になった。

○ 環境に関する対話の設問を行った結果は次の通り。

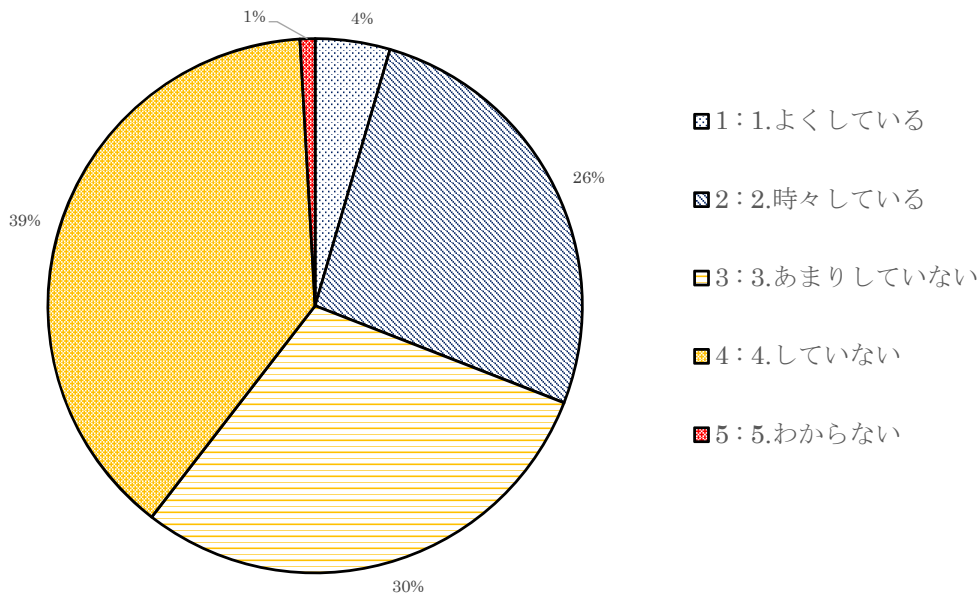
問 39 友人と，節電やごみ問題について話をすることがある。



「友人と，節電やごみ問題について話をすることがある」という回答は、16%の結果となった。

学部で比較すると、人文学部生が 39%、留学生 57%と「友人と，節電やごみ問題について話をすることがある」の回答は高い結果になった。

問 40 家族と，節電やごみ問題について話をすることがある。

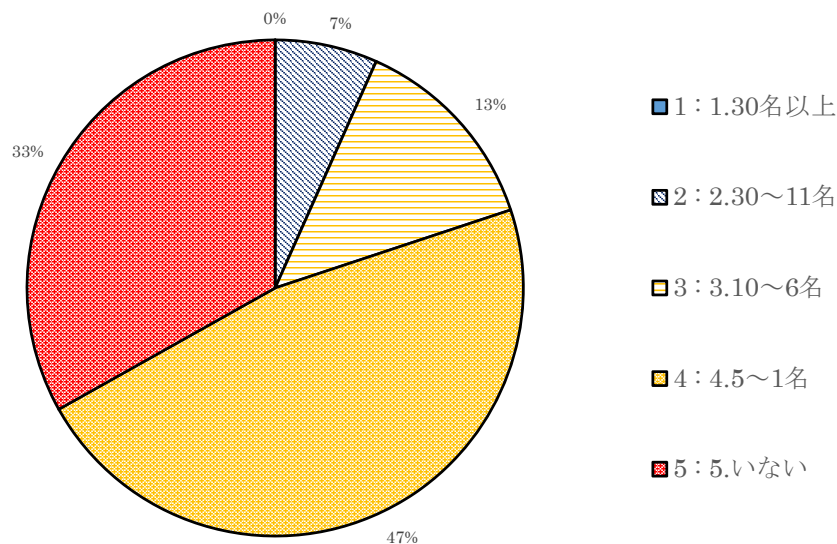


「家族と，節電やごみ問題について話をすることがある」という回答は、30%の結果となった。

学部で比較すると、人文学部生が 52%、教育学部生が 49%、留学生 61%と「家族と，節電やごみ問題について話をすることがある」の回答は高い結果になった。

また、問 39 の「友人と，節電やごみ問題について話をすることがある」の回答 16%と比較すると、節電やごみ問題に関しては、友人と話をするよりも家族と話をする機会が多い結果がでた。

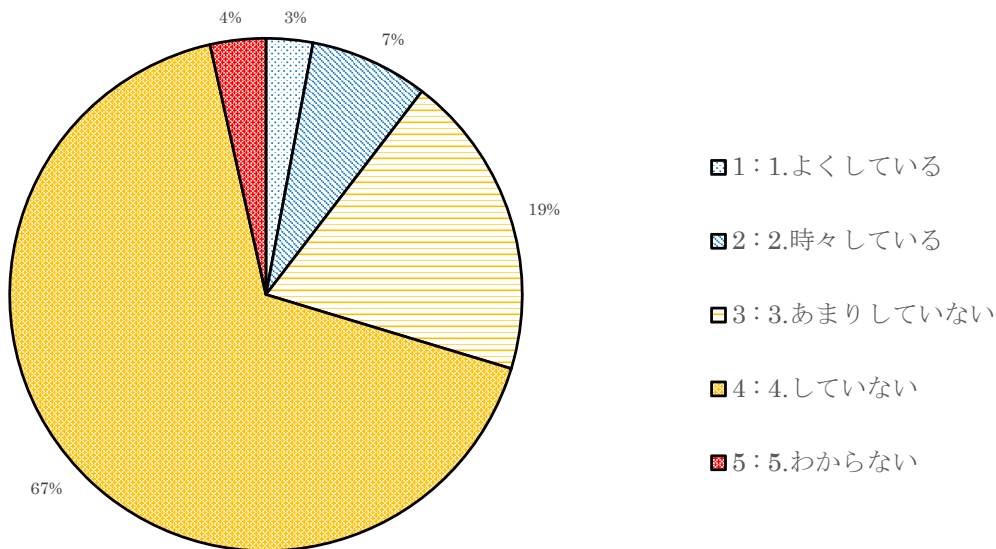
問 42 気軽に環境問題について話せる友人は何人いますか？



「気軽に環境問題について話せる友人は何人いますか」という回答は、「いない」が33%、「5名から1名」が47%の結果となり、5名以下の回答が80%となった。

留学生以外の学部では約70%以上が「気軽に環境問題について話せる友人が5名以下」という結果になった。

問 38 三重大大学で開催される環境イベントに参加している。



「三重大大学で開催される環境イベントに参加している」という回答は、10%の結果となった。

学部で比較すると、人文学部生が46%、留学生61%と「三重大大学の環境イベントに参加している」の回答は高い結果になった。

(比較⑥e 先行事例調査(京都市内の大学生)と比較：環境イベント参加) 環境に対する意識について、「大学などで開催される環境イベントに参加したいと思う」という意識について、平成25年度に京都市がアンケート調査をした結果と比較するとほぼ同じ傾向(43%～38%)になった。